

令和 6 年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

和庄中学校区 校番15 学校名 呉市立長迫小学校

a 学校教育目標	夢を持ち 自ら学ぶ ～つなげる・つながる～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	(ミッション)(学校の使命) 確かな力と社会性を身に付け、地域を愛し、未来を創造しようとする 児童・生徒の育成 (ビジョン)(将来の学校像) 9年間を通して、夢を持ち自ら学ぶ児童・生徒を育成することにより、児童生徒・保護者・地域から信頼される学校
----------	--------------------------	----------------------	---

c 中期経営目標を 踏まえた現状(進捗 状況)と今年度の重 点	現状(成果○と課題●) ○小中一貫教育の推進により、中学校区の共通経営理念に基づいた研究・教育活動が行われている。 ○「和庄中学校区授業モデル」に基づいた教科等の本質に迫る「考える授業」づくりに向け、中学校区で組織的な授業改善を進めている。 ○和庄中学校区「自主的・主体的な行動ができる児童・生徒を育てるカリキュラムマップ」を作成し、地域との連携し、防災学習において課題発見・解決学習に取り組んでいる。 ●目的や場面に応じて自分の考えを表現することが難しい。 ●自主的・主体的に行動できる児童・生徒が少ない。「自立」 (今年度の重点) ①育成すべき資質・能力の重点を「思考力・主体性」とし、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の推進。(問いを生かした「考える授業づくり」)・・・ICTの効果的活用・思考ツールの活用・個別最適な学び ②防災教育の深化のために、地域の特色を生かしたカリキュラムマップの実践を行う。(家庭を巻き込んだ防災教育) ③和庄中学校区スピリットに基づく児童・生徒の育成を目指し、9年間を見通した組織的な生徒指導を行う。 ④健康増進・体力の向上に向け、家庭連携による基本的生活習慣の定着を図る。(早寝・早起き・朝ごはん・メディアコントロール) (小学校)
--	---

育成を目指す資質・能力	知識・技能 思考力・判断力・表現力 主体性・積極性
-------------	---------------------------

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・3 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標 値	上半期			下半期		
						i 達成 値	j 達成 度	k 評価	i 達成 値	j 達成 度	k 評価
*** 確 かな 学 力	学力の向上(貫)	主体的・対話的で 深い学びにつな がる思考力・判断 力の育成	・考える場(タブレット端末等の ICTの効果的活用、シンキング ツールの活用等)の設定により、 学力向上を図る。	・1人1授業を行い、授業 評価票2.5(和庄中学校区目標値) ・「全国学力・学習状況調査」 において全国平均値との差 ・標準学力調査全国平均 を上回る児童の割合	2.5 60	2.6 2.3 4.6	104 115 230	A A A			
		自分の命は自分 で守る児童の育 成	・総合的な学習の時間において、 他教科等と関連を図りながら、 カリキュラムマップに基づく 授業実践を行う。	・自分が住む地域に起こり やすい災害について理解 している児童の割合 ・「災害時に避難する場所 や避難の仕方について理 解している児童の割合	80 80	100 100	125 125	A A			
		和庄中学校区ス ピリットに基づく 児童(生徒)の育成 (貫)	・自分の担当場所を、黙って、 隅々まで時間一杯掃除する。	・縦割り掃除の振り返り カード(掃除頑張り週 間)	90	91	101	A			
** 豊 か な 心	和庄中学校区ス ピリットに基づく 児童(生徒)の育成 (貫)	礼儀正しく感謝の 心をもつ児童の 育成(貫)	・時と場所を考えた挨拶ができる。 (4年生以上の目礼) ・時と場に応じた言葉遣いので きる。「はい」の返事、ふわふ わ言葉、相手の名前を呼ぶ	・挨拶週間による教職 員の見取り ・学期ごとの目標に応じ た教師の見取り	80 90	81 81	101 90	A B			
		体力・運動能力の 向上	・握力アップに向け、積極的なぞう きんしほりをする。 ・外体育のときは50mを必ず1本走 る。	・体力テストで県平均を上 回る。	80 70	42 58	53 83	D B			
* 健 や か な 体	健康促進・体力の 向上	基本的生活習慣 の確立	・「元気っ子週間(早寝・早起き・ 朝ごはん+メディアコントロー ル)を実施し、望ましい生活リズ ムの定着を図る。(貫)	・早寝・早起き・朝ご飯 が実践できた児童の割 合	80	62	77	B			
		児童と向き合う時 間の確保	・「個を大切に支援」を行う 時間を確保する。(スキルタイ ム・NIEタイム・読書タイムの確 実な実施) ・AIDリルの効果的活用 ・専門性に基づくチーム体制の 構築を図る。(貫)	・自分にはよいところがある と思っている児童 の割合 ・日々の業務の中で充 実感を得られていると 感じる教員の割合	80 90	91 92	114 102	A A			

【k:評価】

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100

C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60